

第三者委員会議記録簿

平成22年度下半期

社会福祉法人・春生会

| 施設長 | 兒玉 邦彦 | 出席者 | 第三者委員 | 岡 清子 | 野村 紘子 | 司会者 | 兒玉 邦彦 |
|---|--|-----|---------|-----------------------|-------|-----|--------|
| | | | 保育事業部主任 | 小谷 祐子 | 岩切 理恵 | 記録者 | 岩切 加寿子 |
| | | | 記念事業部主任 | 押川 美保子 | | | |
| | | | 春生事業部主任 | 中萬 裕美 | | | |
| 開催場所 | 保育園3F 会議室 | | | | | | |
| 開催日時 | 平成 23年 2月 14日 (月) | | | 13 時 30 分 ~ 14 時 50 分 | | | |
| 議題 | | | | | | | |
| 1. 各部門より(H22.9.14以降の)苦情についての報告 | | | | | | | |
| 2. 報告内容についての協議 | | | | | | | |
| 3. その他 | | | | | | | |
| 各部門報告内容 | | | | | | | |
| 乳児保育部 | 苦情としてあがったものは特になし。 保育園側は子供をお預かりし、園での様子をお伝えするだけでなく、子供・保護者がそれぞれ抱えている背景も理解し、対応していかなければいけないと感じる。 核家族が多くなり誰に相談していいか分からないこともあると思うので、月に一度ある子育て相談会を利用してほしい。 | | | | | | |
| 幼児教育部 | 苦情としてあがったものは特になし。 同じ子から何度も噛み付かれ不安だと相談される。担任より状況を説明し、かみついた子の保護者にも知らせ直接謝罪され、不安も軽くなったようである。保育士と保護者の密な連絡が必要である。 | | | | | | |
| 記念事業部 | (希望山荘)・・・苦情としてあがったものはなし。 相談・・・ 転倒して頭部を打撲し病院受診をした際、足底板を装着していなかった為、ご家族より「足底板をしていないのはなぜ？」と聞かれた。又「転倒しやすくなっているので十分注意してほしい」。 転倒した時、少しでも衝撃がやわらく様クッションを角につけてケガを予防してほしいと言われる。 (希望楽苑)・・・ 食後に飲ませる薬を持たせたのに飲ませてなかった。 勝手口においてあるごみをどうにかして欲しい。又外灯が点いたままになっていて流星群を見ようとしたが、明るくて見えなかった。 | | | | | | |
| 春生事業部 | (ケアプラン)・・・苦情としてあがったものはなし。 (訪問)・・・苦情としてあがったものはなし。 (春生倶楽部)・・・苦情としてあがったものはなし。 相談・・・ 自主事業を利用していたが、最近足が弱く転倒することが多くなり、物忘れも多くなり、炊事もおぼつかなくなったので、介護認定を受けてサービスを受けたいがどうすればいいかわからない。 奥様を亡くされ独居で家の中で過ごすことが多いのでサービスを受けたい。今すぐにでも日中の対応をしてもらいたい。 | | | | | | |
| 協議内容 | | | | | | | |
| 車イス対応にした為、足底板は装着していなかったことを伝える。会議にて、転倒する事が多くなったので見守り不足にならない様、職員間の連携、声掛けを密にすることを取り決める。又、ぶつかり防止クッションを購入し適所に取り付ける。 職員のチェックミスで、以前預った漢方薬と同じと勘違いして1包のみ飲ませた。同じことがないように職員で話し合った。 ゴミいれの大きいのを買い、対処した。外灯は最後の職員が帰ったら消すようにした。 同施設内の国富ケアプランのケアマネに報告し対応し、介護認定を受けた。 要支援の介護認定が切れていた為、地域包括支援センターへ問い合わせ申請と手続きをしていただく。デイサービスでは週3回自主利用することになった。 | | | | | | | |
| 特記事項 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |